

大阪中之島美術館 国立国際美術館 共同企画

すべて未知の世界へ — GUTAI 分化と統合 開催のお知らせ

2022 年 10 月 22 日（土）– 2023 年 1 月 9 日（月・祝）

この度、大阪中之島美術館と国立国際美術館では、共同企画となる展覧会「すべて未知の世界へ — GUTAI 分化と統合」を開催いたします。

2022 年 2 月に開館した大阪中之島美術館と、道路一本を隔てて隣り合う国立国際美術館。

具体美術協会（具体）が解散して 50 年の節目となる 2022 年、2 館同時開催という類い稀な形式で開催される本展覧会は、「分化と統合」というテーマを掲げ、新しい具体像の構築をめざします。

つきましては、展覧会の告知についてご協力賜りますようお願い申し上げます。



具体美術協会は、1954 年、兵庫県の芦屋で結成された美術家集団です。画家の吉原治良（1905-72）を中核に据えたこの集団は、絵画をはじめとする多様な造形実践をとおして、「われわれの精神が自由であるという証を具体的に提示」しようとした。吉原による指導のもと、会員たちがそれぞれの独創を模索した 18 年の軌跡は、いまや国内外で大きな注目を集め、戦後日本美術のひとつの原点として、なかば神話化されるに至っています。

本展覧会は、そんな具体の歩みを、「分化」と「統合」というふたつの視点からとらえなおす試みです。誰の真似にも陥らず、互いに異質であろうとしながら、あくまで一個の集団としてまとまろうとするその姿勢は、吉原の考える美術のあるべき姿、つまり「人間精神と物質とが対立したまま、握手」している状態とも、重なりあうものだと言えるでしょう。

大阪中之島美術館と国立国際美術館、2 会場によって構成される本展覧会は、具体の活動拠点である「グタイピナコテカ」が建設された地、大阪の中之島で開催される初の大規模な具体展です。大阪中之島美術館で具体を「分化」させ、それぞれの独創の内実に迫りつつ、国立国際美術館では具体を「統合」し、集団全体の、うねりを伴う模索の軌跡を追う。それによって目指すのは、新しい具体の姿を提示することにはかなりません。解散後 50 年となる 2022 年、「すべて未知の世界へ」と突き進んでいった彼ら／彼女らのあゆみをご覧ください。

* 本展は大阪中之島美術館、国立国際美術館の 2 会場で開催します。
それぞれの観覧料、開館時間、休館日は一部異なりますのでご注意ください。

■本展のみどころ

1. 具体の活動拠点、大阪・中之島で開催される初の大規模な具体展
2. 大阪中之島美術館、国立国際美術館の2館同時開催
展示総面積約 3,000 m²・出品総点数約 170 点
3. 「分化」と「統合」という2テーマに基づき、新たな具体像を提示
4. 「インターナショナル スカイ フェスティバル」の再現

■展覧会構成

➤ 具体を「分化」する

分化 大阪中之島美術館

具体は、常に先駆性と独創性とともに語られてきました。吉原治良の「人のまねをするな、今までにないものをつくれ」という言葉が、端的にそのことを表すものとして語り継がれていますが、その認知度とは裏腹に、具体の先駆性と独創性の内実は、明らかにされていません。

「分化」をテーマとする大阪中之島美術館では、具体の制作からいくつかの要素を抽出し、個々の制作のありようを子細に検証します。

本会場がめざすのは、具体は多様であるという結論を導き出すことではありません。多様であることは前提とし、どのような表現が受け容れられてきたのか最大限可視化することで、具体というグループの本質にせまろうという試みです。

作品名の後にある記号は作品の展示会場です。

◆：大阪中之島美術館で展示 ★：国立国際美術館で展示

1



2



3



4



1 吉原治良「作品」◆ 1962 年、油彩、カンヴァス、東京都現代美術館

2 田中敦子「電気服」◆ 1956/86 年、管球・電球・合成樹脂エナメル塗料・コード・制御盤、高松市美術館

撮影 | 加藤成文 ©Kanayama Akira and Tanaka Atsuko Association

3 松谷武判「繁殖 65-24」◆ 1965 年、ビニール接着剤によるレリーフ・油彩・アクリル、カンヴァス・合板、国立国際美術館

4 白髪一雄「天暴星両頭蛇」◆ 1962 年、油彩、カンヴァス、京都国立近代美術館

➤ 具体を「統合」する

統合 国立国際美術館

具体は、少なくともその出発点においては、「画家」集団でした。時代が下るにつれ多様化していく造形実践の数々も、もとをたどれば、絵画という規範からの自由をめざした結果と言えます。問題は、絵画らしさをいかに解体し再構築したか、です。絵画「らしさ」をどう捉えているのか、また、それを解体してなお絵を描こうとするのか否かで、導き出される新しさはおのずと変わってくるでしょう。国立国際美術館では、マクロな視点に立って具体のあゆみを眺め、さまざまに展開される問いなおしの作業に、いくつかの傾向を見出そうと試みます。必ずしも一枚岩でないこの集団の、内なる差異をあぶりだし、そのうえで「統合」してみせることが主な目的です。



5



6



7



8

上記左から

5 ヨシダミノル「JUSTCURVE '67 Cosmoplastic」★ 1967 年、ステンレス・プラスチック・蛍光灯・センサーほか、高松市美術館

6 村上三郎「作品」★1957 年、ミクストメディア、板、芦屋市立美術博物館、©MURAKAMI Tomohiko

7 吉原治良「作品 C」★ 1971 年、アクリル、カンヴァス、大阪中之島美術館

8 山崎つる子「Work」★ 1960 年、油彩・エナメル、カンヴァス、国立国際美術館

■出品作家（五十音順）

今井祝雄、今中クミ子、上前智祐^{うえまえちゆう}、浮田要三、大原紀美子、小野田實、金山明、菅野聖子、
聴濤襄治^{きくなみじょうじ}、喜谷繁暉^{きたにしげき}、木梨アイネ、坂本昌也、嶋本昭三、白髪一雄、白髪富士子、鷺見康夫、
田井智、高崎元尚、田中敦子、田中竜児、坪内晃幸、^{なのおほみちまさ}猶原通正、名坂千吉郎、名坂有子、
堀尾昭子、堀尾貞治、前川強、^{まさのぶまさとし}正延正俊、松田豊、^{まつたにたけまさ}松谷武判、向井修二、村上三郎、元永定正、
森内敬子、山崎つる子、吉田稔郎、ヨシダミノル、吉原治良、吉原通雄

■関連イベント

シンポジウム、講演会、ギャラリートーク等の開催を予定しています。

詳細は決まり次第、各館公式ホームページなどでお知らせします。

◎インターナショナル スカイ フェスティバル

大阪中之島美術館では2022年11月15日(火)～20日(日)の期間中、
具体の空中展覧会、「インターナショナル スカイ フェスティバル」の再現
を行います。

「インターナショナル スカイ フェスティバル」とは、1960年に具体が
大阪・なんば高島屋の屋上で実施した展覧会です。具体の会員や海外の作家に
よる下絵を拡大して描き、アドバルーンに吊って空中に展示しました。

今回の展示は、当時の発表内容とは異なりますが、大空での展
覧会を体感していただける内容です。当館の屋上より、7球の
アドバルーンが掲揚される予定です。

* 荒天の場合、日程が変更となります。その場合は当館公式ホームページでお知らせいたします。



「インターナショナル スカイ フェスティバル」風景
1960年

大阪中之島美術館 国立国際美術館 共同企画

すべて未知の世界へー GUTAI 分化と統合 開催概要

【展覧会名】 大阪中之島美術館 国立国際美術館 共同企画 すべて未知の世界へー GUTAI 分化と統合

【会期】 2022年10月22日(土)～2023年1月9日(月・祝)

【開場時間】 10:00～17:00 * 国立国際美術館は金曜・土曜 20:00 まで (入場は閉場の30分前まで)

【休館日】 月曜日 (ただし、1月9日[月・祝]は両館開館/1月2日[月・休]は大阪中之島美術館のみ開館)

* 大阪中之島美術館は12月31日(土)、1月1日(日・祝)休館

* 国立国際美術館は12月28日(水)～1月3日(火)休館

【会場】 大阪中之島美術館 5階展示室、国立国際美術館 地下2階展示室

【主催】 大阪中之島美術館、国立国際美術館、朝日新聞社、MBS テレビ

【協賛】 竹中工務店

【協力】 公益財団法人ダイキン工業現代美術振興財団

【助成】 令和4年度文化庁優れた現代美術の国際発信促進事業

公益財団法人 花王 芸術・科学財団、一般財団法人 安藤忠雄文化財団

【特別協力】 芦屋市立美術館、兵庫県立美術館

【観覧料】

会場/券種	大阪中之島美術館	国立国際美術館
2館共通券	2,500円	
一般	1,400円 (1,200円)	1,200円 (1,000円)
大学生	1,100円 (900円)	700円 (600円)

高校生以下・18歳未満無料 (要証明)

* 税込み価格。カッコ内は20名以上の団体料金。国立国際美術館のみ夜間割引料金 (対象時間：金曜・土曜の17:00-20:00)

* 心身に障がいのある方とその付添者1名について、大阪中之島美術館は半額、国立国際美術館は無料 (いずれも要証明)

【問い合わせ】 大阪中之島美術館の展示について：06-4301-7285 (大阪市総合コールセンター)

国立国際美術館の展示について：06-6447-4680 (代)

【各館公式ホームページ】

大阪中之島美術館：<https://nakka-art.jp/exhibition-post/gutai-2022/>

国立国際美術館：https://www.nmao.go.jp/events/event/gutai_2022_nakanoshima/

本展は新型コロナウイルス感染予防対策を実施したうえで開催いたします。都合により、会期・開館時間などが変更になる場合があります。最新情報は各館公式ホームページなどでご確認ください。

一報道に関するお問い合わせー

「GUTAI 分化と統合」広報事務局 (共同 PR 内) 担当：三井

E-mail. gutai-2022-pr@kyodo-pr.co.jp / TEL. 03-6264-2382 / FAX. 0120-653-545

〒104-0045 東京都中央区築地 1-13-1 銀座松竹スクエア 10F